

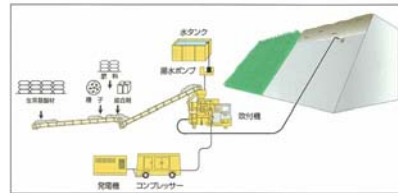
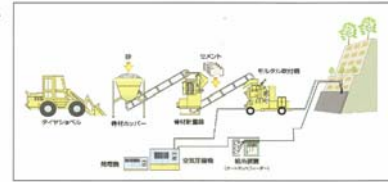
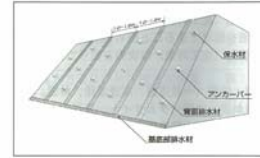
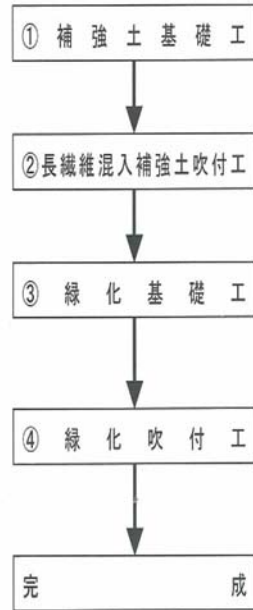
技術概要書（様式）

※別紙2

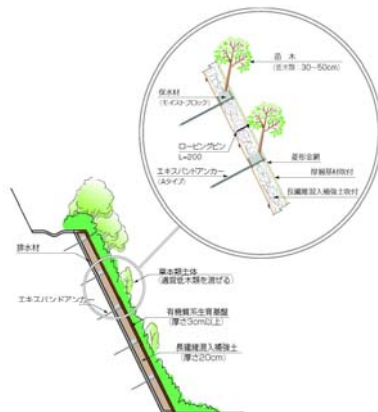
出展技術の分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> インフラDX <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> 品質 (該当分類に○を付記)		
技術名称	ロービングウォール工法	担当部署	事務局
NETIS登録番号	旧QS-000021-VE, KT-180143-A	担当者	上杉 吉史
社名等	長繊維緑化協会 九州支部	電話番号	092-791-9715
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 近年、建設工事などによる地形の改変によって出現する斜面・法面に対し、地球環境の保全や周辺景観との調和など、環境負荷低減に対する要求が高まっており、その対策として環境や景観に配慮した緑化工が求められている。 このような社会の要求に答えるべく、土構造物の造成と緑化工を併用し、地形の改変を最小限に抑える。また、長繊維を基盤に混入することにより補強土としての効果を発揮し、造成した補強土表面に緑化工を施工することにより、CO2削減など環境保全対策にも貢献する『ロービングウォール工法』を開発した。		
	2. 技術の内容 ロービングウォール工法は、砂とセメントの混合物に、吹付ノズル先端にて長繊維をエアーの圧力により強制的に混入させたものを、斜面・法面に吹付造成する補強土構造物とその補強土表面を、植生基材吹付工などで緑化する工法の一体施工方法の総称である。 当工法は、その造成断面形状および使用資材の組合せから、法面保護タイプ、擁壁タイプ、法面安定タイプの3種類に分類される。		
	3. 技術の効果 1. 長繊維混入補強土は斜面安定上、十分な強度を有している事。 2. 表面緑化工による植物の生育を健全に保つ事ができる事。 3. 長繊維混入補強土は、長繊維を長距離搬送でき、優れた施工性を有している事。 以上の3点について、(財)砂防・地すべり技術センターにより、建設技術審査証明（第0303号）の認定を受け、全国的に採用も多く、砂防分野における『緑の斜面づくり』を積極的に推進している。		
	4. 技術の適用範囲 1. 道路・ダム・急傾斜地・ゴルフ場等の斜面、法面およびその崩壊跡地 2. 極強酸性地山の斜面・法面 3. EPS(発泡スチロール)軽量盛土の表面覆土 4. 既設モルタル・コンクリート吹付面 5. 既設法枠・アンカー受圧板の被覆 6. 既設擁壁(間知石積・ブロック積など)の被覆		
	5. 活用実績 国の機関 448 件 (九州 92件 、九州以外 356件) 自治体 981 件 (九州 214件 、九州以外 767件) 民間 185 件 (九州 47件 、九州以外 138件)		

6. 写真・図・表

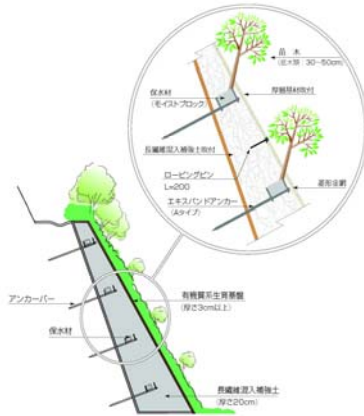
ローピングウォール工法 施工フロー



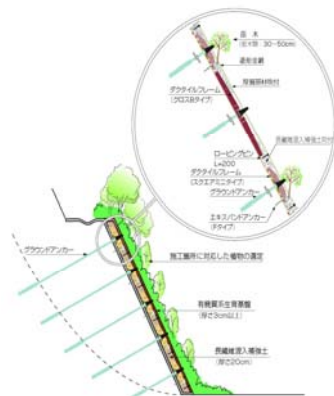
ローピングウォール工法 施工タイプ



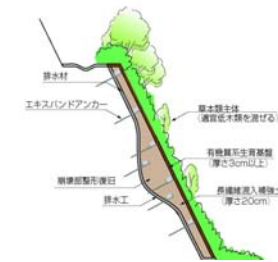
法面保護タイプ



擁壁タイプ



法面安定タイプ



擁壁タイプ(崩壊部復旧タイプ)